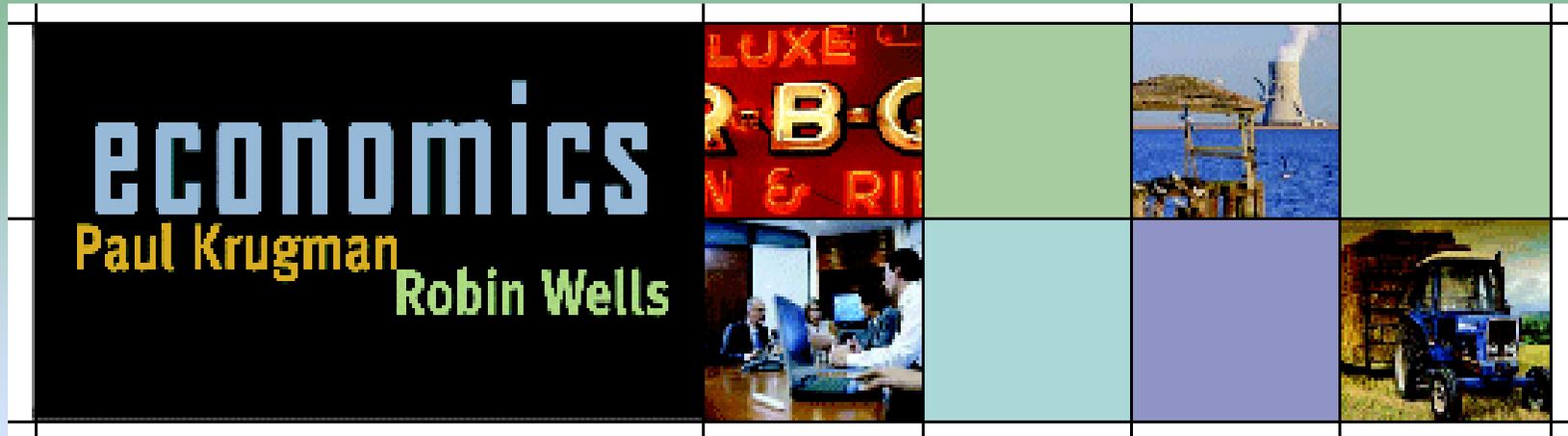


経済学入門B

- ◆担当:堀井 亮
horii @ econ . jpn . org 経済学本館5階521号室
- ◆TA: 劉穎男
liuyingnan @ hotmail . co . jp
- ◆目的:市場メカニズムの基礎を学習する
- ◆テキスト: ポールクルーグマン、ロビンウェルズ
「クルーグマン ミクロ経済学」東洋経済 4800円
- ◆評価: 期末試験による

この授業の位置づけ

- ◆近代経済学の入門
 - ◆より正確には「ミクロ経済学」の入門
 - ◆「ミクロ経済学」「マクロ経済学」(2年生)
- ◆市場経済にすべて任せればよいのか？
 - ◆市場に任せてうまくいくケース
 - ◆市場に任せるとうまくいかないケース:何が問題か
 - ◆経済政策
- ◆まずは、市場がうまく働く場合を学習しよう



第1章 最初の原理

ミクロ経済学の考え方

① 個人選択の決定:4つの原理

人々はどのように行動するか

② 個人選択の相互作用:5つの原理

その結果社会全体ではどのようなことが起こるか

個人選択の決定:

原理1. 資源は希少だ.

(個人にとって)

金銭

時間

(社会全体にとって)

土地

労働力

生産設備

個人選択の決定:

原理2.機会費用で考える:

何かを得るためにあきらめなければならないもの

金銭

時間

希少な資源

→ほしいものを手に入れるためには、別のものをあきらめなければならない

個人選択の決定:

原理3. “どれだけか?”で考える

→ **トレードオフ(費用と便宜の比較)**

→ **限界的決定と限界分析**

“あれかこれか”ではない。

少しだけ増やすとどうなるか

個人選択の決定:

原理4. 人々は自分の暮らしを良くする機会を見逃さない.

→ インセンティブ(誘因)

例: 成果報酬

個人選択の決定:まとめ

④ 個人選択の決定:

- 資源希少性
- 機会費用
- トレードオフ・限界分析
- インセンティブ

相互作用：経済が働く仕組み

原理1. 取引は利益をもたらす.

→ 取引と取引利益

自給自足より多くのものを手に入れられる

→ 特化
分業

どれだけの人が何に特化するか？

相互作用：経済が働く仕組み

原理2. 市場は均衡に向かう.

均衡：個々人が従来と違うことをしてみても自分の生活をよくすることができないような状況

←(個人選択の第4の原理：人々は自分の暮らしをよくする機会を見逃さない)

相互作用：経済が働く仕組み

原理3. 社会的目標を達成するため、資源はできるだけ効率的に用いなければならない。

→ 効率的：資源が無駄なく使われている状況

ほかの人々を犠牲にすることなく誰かの暮らしをよくする余地のない状況

→ 公平性とは場合によって対立する

相互作用: 経済が働く仕組み

原理4. 市場は通常効率性を達成する.

見えざる手

→ 例外: 市場の失敗

相互作用: 経済が働く仕組み

原理5. 市場は効率性を達成しない場合には, 政府介入が社会厚生を高める可能性がある.

- 個人の行動が副作用を及ぼすとき
- 独占のあるとき など

相互作用：経済が働く仕組み：まとめ

④ 個人選択の相互作用:

- 取引は利益をもたらす
- 市場は均衡に向かう
- 効率性
- 市場は通常効率性をもたらす
- 市場の失敗と政府介入

第1章は終わり

次回は
第2章:
経済モデル:
トレードオフと取引